

2023年8月10日

各位

会社名 株式会社 ブイキューブ
 代表者名 代表取締役会長 間下 直晃
 (コード番号：3681 東証プライム)
 問合せ先 取締役 CFO 経営企画本部長 山本 一輝
 (TEL. 03-6625-5011)

**業績予想と実績との差異及び
 通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ**

2023年2月14日に公表いたしました2023年12月期第2四半期累計期間の連結業績予想と本日公表の実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最新の業績動向等を踏まえ、2023年12月期の通期連結業績予想と配当予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績との差異

- (1) 2023年12月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異
 (2023年1月1日～2023年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	調整後 EBITDA	調整後 営業利益	営業利益
前回発表予想 (A)	6,200	1,020	—	350
実績値 (B)	5,751	794	309	117
増減額 (B-A)	△449	△226	—	△233
増減率 (%)	△7.2	△22.2	—	△66.6
(参考) 前第2四半期実績 (2022年12月期第 2四半期)	6,610	1,270	832	673
	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益	
前回発表予想 (A)	320	180	7円42銭	
実績値 (B)	91	4	0円18銭	
増減額 (B-A)	△229	△176		
増減率 (%)	△71.6	△97.8		
(参考) 前第2四半期実績 (2022年12月期第 2四半期)	633	519	21円42銭	

(2) 差異の理由

2023年12月期第2四半期累計期間の期初時点の業績予想は、コロナ禍の終了によりオンライン活用が急速に進んできた中でリアルへの揺り戻しも見受けられる社会環境の変化もあり、前年対比410百万円減収を見込んでおりましたが、特定用途固有の環境変化による想定以上の減収により当初計画を下回りました。特にイベントDX事業において、製菓業界の小規模イベントの開催数の想定を上回る減少と、人材業界における特定大口顧客の急な方針変更によるイベント開催数の減少が発生した中で、短期的には削減の難しい人件費を中心とした固定費の高止まりが利益率低下に大きく影響しました。また、期初の想定を大きく上回る円安進行も当社の海外からの仕入れコストの増大に繋がり、利益率低下に影響いたしました。

2. 通期連結業績予想の修正

(1) 2023年12月期通期連結業績予想の修正（2023年1月1日～2023年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	調整後 EBITDA	調整後 営業利益	営業利益
前回発表予想 (A)	12,500	2,150	—	700
今回修正予想 (B)	11,500	1,570	475	100
増減額 (B-A)	△1,000	△580	—	△600
増減率 (%)	△8.0	△27.0	—	△85.7
(参考) 前期実績 (2022年12月期)	12,229	1,945	1,025	675
	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益	
前回発表予想 (A)	600	350	14円42銭	
今回修正予想 (B)	10	未定	未定	
増減額 (B-A)	△590	—		
増減率 (%)	△98.3	—		
(参考) 前期実績 (2022年12月期)	612	84	3円49銭	

(2) 修正の理由

上期の業績及び下期の見通しを踏まえ、修正するものであります。

売上高につきましては、主にイベントDX事業及びサードプレイスDX事業での減収を見込んでおります。

■ イベントDX事業

米国子会社 Xyvid は下期に新規案件が開始され復調見込みであり、国内のオンラインイベントも一部の業界を除き成長しているものの、製菓業界の小規模イベント・人材業界の特定大口顧客の利用は期初計画を下回る傾向が続く見込みです。

■ サードプレイスDX事業

テレキューブの設置はこれまで高い成長が継続しておりましたが、企業向け、公共空間向けともに高い水準を維持しているものの、期初に想定した台数は下回る見込です。

利益につきましては、減収を見込む中、コスト削減には取り組みながらも、変動費に比べて短期的な削減の難しい人件費を中心とした固定費が重く、同日開示しております「希望退職者募集等による経営合理化と特別損失の計上及び役員報酬の返納に関するお知らせ」のとおり構造改革を進めてまいりますが、今期中の利益率改善効果は限られるため、利益率が下がる想定をしております。また、海外プロダクトの仕入等における急激な円安の影響もあり、各段階利益において減益を見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益及び1株当たり当期純利益につきましては、希望退職者の募集等による特別損失の計上等の影響を精査中であるため、未定とさせていただきます。その他の影響も含め、算定が可能になった時点で改めて開示させていただきます。

3. 配当予想の修正

(1) 修正の内容

	年間配当金 (円)		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想 (2023年2月14日公表)	—	4.00	4.00
今回修正予想	—	0.00	0.00
当期実績	0.00	—	—
前期実績 (2022年12月期)	0.00	4.00	4.00

(2) 修正の理由

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と位置付けており、配当方針を「NOPLAT（みなし税引後利益）をベースに20%の配当性向を目安として、将来的には30%を目指す」と定めております。

しかしながら、2023年12月期は現時点で上記の通りの通期連結業績を見込んでおり、十分な純利益を確保できない見通しであることから、期末配当を無配の予定に修正させていただくことといたしました。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、今期中の人員削減等による固定費軽減施策の実施、インフレ・円安に対応した価格転嫁やコスト管理、高付加価値なサービスの提案といった単価を上げる営業活動等、利益率を高める施策により、来期以降の利益の増大と復配を実現できますよう努めてまいります。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

以 上